

三重大学教職大学院

(大学院教育学研究科教職実践高度化専攻)

大学院案内2025



ごあいさつ

近年、社会の大きな変容に伴い、学校現場の教育課題も複雑化、多様化してきています。

教師に求められる資質も多岐に及び、教員一人ひとりの専門性と実践力の向上が求められるとともに、「チーム学校」として教職員が連携して多様な課題に取り組んでいけるような環境づくりも重要視されています。このような社会的要請に対応するべく、この専攻には2コース（学校経営力開発コース・教育実践力開発コース）があり、各コースの下にそれぞれ2つの分野が開設されています。

令和7年度からは、これまでの取組みを更に充実すべく、新たな取組みとして【学校共創プロジェクト】を開始します。これは進学されるみなさんの持つ課題と学校現場の抱える課題のマッチングを行い、具体的な問題解決を通して課題解決力の向上を図るものです。

また、免許取得のための取組み（教職チャレンジプログラム；長期履修）も開設しますので、新たな免許種の取得も可能となります。

共に学び議論する、本教育学研究科はそんな砥礪切磋の場でありたいと考えています。教育に対する熱い思いを持ったみなさんを待っています。

教育学研究科長 伊藤 信成



… 目次 …

目的・アドミッションポリシー…1

新カリキュラムの特色…2

各コース・分野の概要…3

学修の流れ…4

指導体制・修了生の声…5

多様な履修プログラム…6

三重大学教職大学院の概要…7

入試・説明会等の日程…8

Q&A…9

目的

本教職大学院（三重大学大学院 教育学研究科 教職実践高度化専攻）は、三重県における喫緊の教育課題に取り組むため、学校を変える推進者としてのスクールリーダーとなる現職教員、将来的に地域教育を支えるミドルリーダーとなる資質・力量のある新人教員を養成することを目的とします。

▼ 育成をめざす 3つの力

〔マネジメント能力〕〔課題発見・解決能力〕〔未来を拓く力〕の3つの力を備えた、スクールリーダー・ミドルリーダーを育成します。



〔マネジメント能力〕

組織運営に必要なマネジメント能力のみならず、授業や学級、カリキュラムのマネジメントも含めた幅広いマネジメント能力

〔課題発見・解決能力〕

学校や地域にとって「何が本質的に重要な問題か」を見極め、解決していく能力

〔未来を拓く力〕

自分自身の行動や思考そのものを客観的に見直すことで、教師としてのアイデンティティを再構築し、自信と意欲、高い志を持って学び続け、教職の未来を切り拓いていく力

アドミッションポリシー

…このような人を求めます…

学級・学校経営、学習指導方法の開発・改善、生徒指導・教育相談、教育課程、教師教育等における様々な今日的課題の解決、または教科の専門性や特別支援教育、幼児教育の知識・技能の習得による実践的授業力の向上のため、確かな指導理論の構築を目指し、より高度な実践力と応用力を身につけたい人。

- ▶現職教員………学校現場での経験に基づき、教職大学院での明確な研修テーマや課題を持ち、それらを協働で解決し、学校や地域において指導的役割（スクールリーダー）を目指す教員。
- ▶学部新卒者等…学校現場での実習や現職教員学生との協働により、教職に関する実践的な専門性や高度な実践力を身につけたい人。

特に入学者に求めること

- 《探究》 学校・地域の教育課題をより広い視野で探究できる人
- 《協働》 より柔軟な発想で協働的に学び続けることができる人
- 《創造》 地域の教育の未来を創造することに強い思いを有している人

新カリキュラムの特色（令和7年度～）

▼ 学びの中核としての【学校共創プロジェクト】

本教職大学院のカリキュラムは、理論と実践の融合・往還をめざし「3つの力」を形成する「中核（コア）科目」と、その探究を支える基礎的・基本的な知識・技能を習得する「共通科目」、探究の必要に応じて適用可能な知識・技能を習得する「選択科目」から構成されます。

【学校共創プロジェクト】とは？

…地域の教育課題に向きあい、学校現場とともに解決の道を探求していくチームによるプロジェクト演習です。

- 地域の教育課題を反映した学修テーマの設定
- 学修テーマに基づいたプロジェクトチーム結成
〈院生 + 指導教員 + 連携協力校教員〉

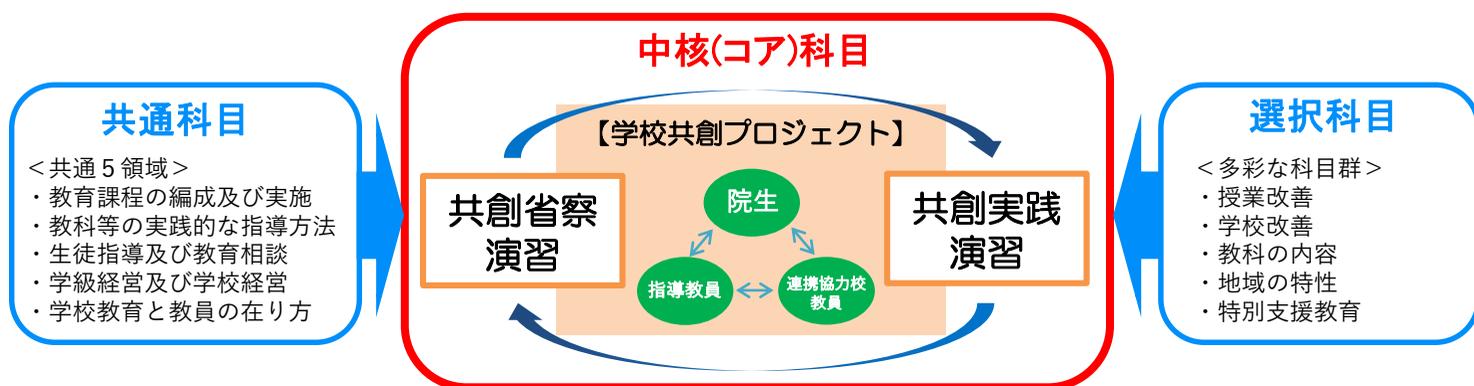
→ “実践” と “省察” の往還による学びの高度化

共創省察演習とは？

プロジェクトの企画・立案
プロジェクトの進捗確認・省察・共有

共創実践演習とは？

学校現場でのプロジェクトの実践
連携協力校教員との協働



① プロジェクトの **テーマ設定**

- 国内外の教育動向・三重県内の教育課題への理解
- 学校での実践研究に必須の方法論とアカデミック・スキルの習得
- 地域の教育課題解決のための学修テーマの発見・実践計画の立案

- プロジェクト改善案の学校現場での実践研究の実施
- プロジェクトチームによる実践研究の成果の取りまとめ
- さらなる教育課題の発見と今後の取り組みのための展望の自覚

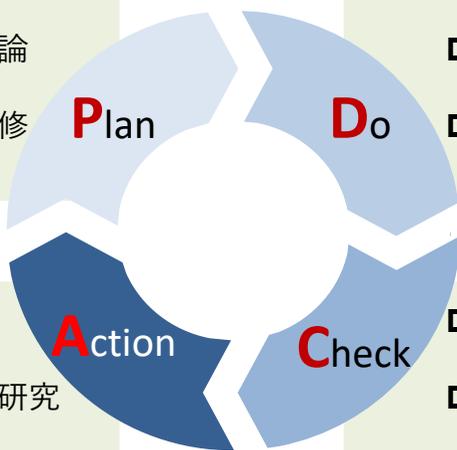
④ プロジェクトの **改善**

② プロジェクトの **実践**

- 院生と教職大学院スタッフによるプロジェクトチームの結成
- 連携協力校の選定と連携協力校教員との協働
- チームによる学校現場での実践研究の実施

- 学校現場における実践研究の成果や課題の検討
- プロジェクトの有効性を高めるための連携協力校との協議
- プロジェクトチームによる改善案の策定

③ プロジェクトの **検証**



各コース・分野の概要

▼学校経営力開発コース

〈経営力開発分野〉 対象：現職教員

▶ 地域の教育改革を主導するスクールリーダーの育成

- 学校経営や教育実践に関する高度な専門性を身につけることができます。
- 学校や地域の課題を多角的に広い視野から総合的にとらえるとともに、学術的な理論に基づいて解決の方向性を探究することで、実践力を高めることができます。

〈学習開発分野〉 対象：学部新卒学生等

▶ 多様で複雑な教育課題に対応できる人材の育成

- 学級づくり、授業づくりなどの教職科目についてより深く学び、教育実践に関する高度な専門性や実践力を身につけた上で教壇に立つことができます。
- 【共創実践演習】で得た経験を、学術的な理論に照らして意味づけるだけでなく、その専門分野に限らず幅広い視野からとらえることにより、学修テーマを探究することができます。

▼教育実践力開発コース

〈教科教育高度化分野〉 対象：現職教員・学部新卒学生等

▶ 高度な教材開発力と授業力を持つ人材の育成

- 各教科の教育実践に関する高度な専門性を身につけることができます。
- 教科の教育内容と指導法とが有機的に結びついた学修を進め、最新の研究成果に基づいた知識と技能を、教育現場の要求に対応させながら獲得します。

〈特別支援教育分野〉 対象：現職教員・学部新卒学生等

▶ 特別支援教育に関する高度な専門性を持つ人材の育成

- 特別支援学校の運営や、学校間連携、教育と医療、福祉、労働等との連携に関する高度な専門性を身につけることができます。
- 特別な支援を必要とする幼児児童生徒やその保護者に対して、個人と環境の相互作用の視点に基づいた適切な支援を行うことのできる力を培うとともに多様性を認め合い、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育のあり方について探究することができます。

学修の流れ

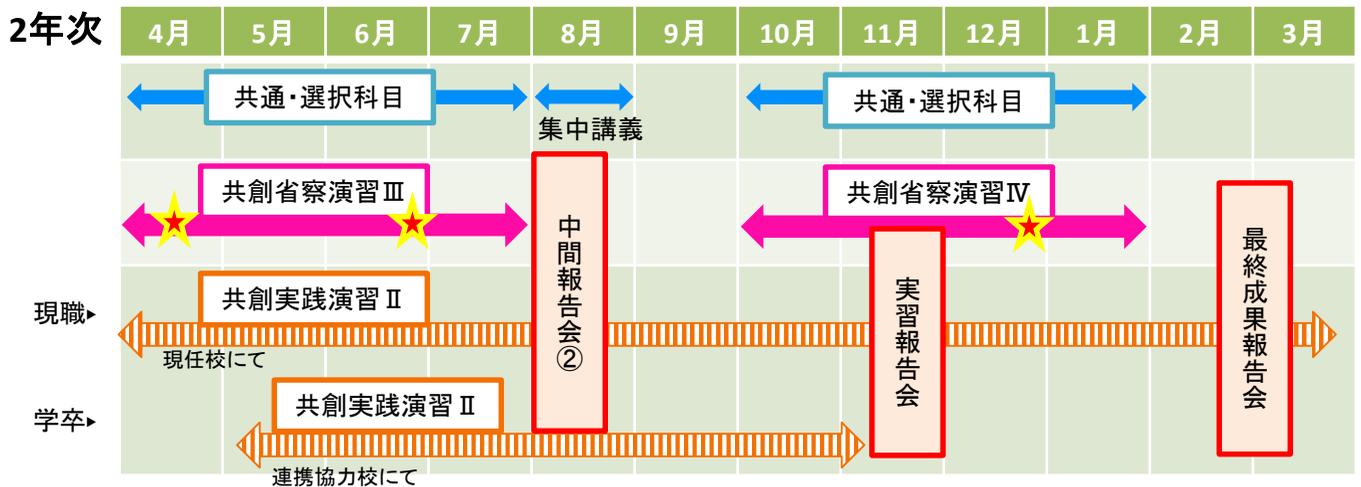
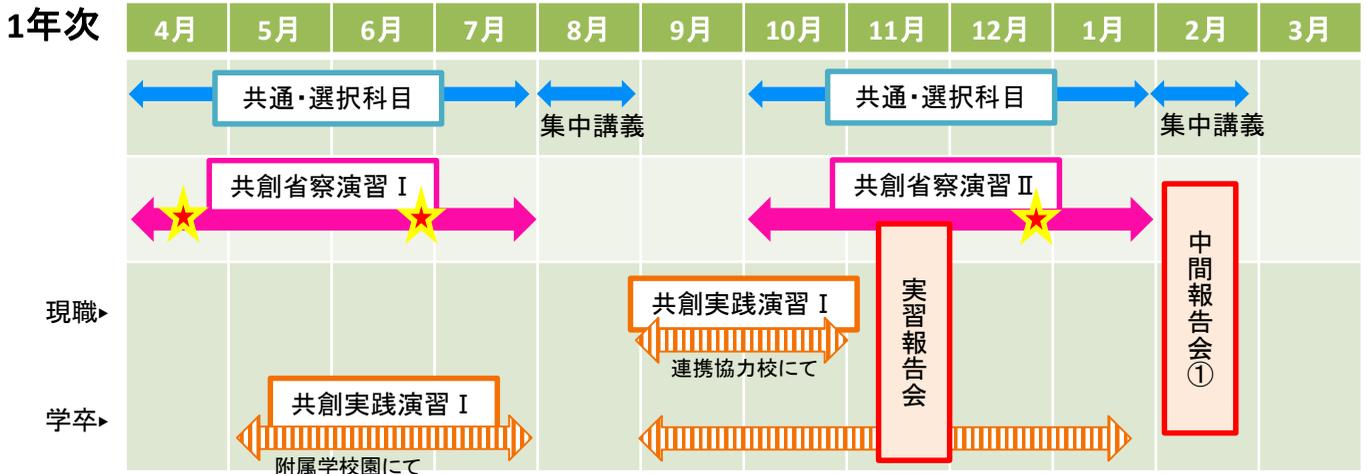
▼学修の概要

〈経〉=経営力開発分野 〈学〉=学習開発分野
 〈教〉=教科教育高度化分野 〈特〉=特別支援教育分野

		現職教員学生	学部新卒学生等
1 年次	大学で	<ul style="list-style-type: none"> 主に必修科目の履修が中心。 通常開講授業は木曜・金曜に集中。夏期と冬期には集中講義も。 現職教員学生と学部新卒学生の学びあいを重視し、両者が同じ授業を受講。 自身の問題意識を深め、地域の教育課題と接続させる【共創省察演習】 	
	現場で	<ul style="list-style-type: none"> 〈経/教〉連携協力校での【共創実践演習】（9～10月） 〈特〉県立特別支援学校あるいは小中学校特別支援学級での【共創実践演習】（20日間） 	<ul style="list-style-type: none"> 〈学/教〉附属学校園（幼・小・中・特、全校園）での【共創実践演習】（5～1月、毎週水曜） 〈特〉附属特別支援学校での【共創実践演習】（20日間）
2 年次	大学で	<ul style="list-style-type: none"> 【共創実践演習】の計画、および【共創実践演習】で得られた学びを振り返り共有する【共創省察演習】 主に選択科目の履修（木曜・金曜、および夏期集中講義） 	
	現場で	<ul style="list-style-type: none"> 現任校を【学校共創プロジェクト】の拠点に。 1週間のうちの2.5日が現任校勤務、0.5日が現任校での【共創実践演習】 	<ul style="list-style-type: none"> 連携協力校を【学校共創プロジェクト】の拠点に。 〈学/教〉志望校種・学修テーマに応じた県内連携協力校での【共創実践演習】 〈特〉県立特別支援学校での【共創実践演習】

▼年間スケジュール

★印=合同演習(テーマの共有・進捗報告・ディスカッション等)



指導体制

- ・ 院生1名に対して指導教員1名・副指導教員1～2名が配置されます。
- ・ 指導教員・副指導教員の配置に際しては、研究者教員・実務家教員のバランスが考慮されます。
- ・ 指導教員が責任者となって院生や副指導教員とともに【学校共創プロジェクト】を進行し、院生の学修成果報告書の作成を支援します。



担当教員の専門領域等の詳細については、
本学ホームページをご覧ください▶▶▶

修了生の声 ～教職大学院での学びを振り返って～



阪本 明士 学校経営力開発コース 経営力開発分野 修了
(現職教員学生として在籍／高等学校教諭)

この2年間の大きな財産は、学びを通して得た「人との出会い」でした。先生方、同期生の仲間、研究を通じて知り合った方々などから多くの刺激と気づき、勇気をいただきました。本来、学びは厳しいものでなければならないと考えています。しかし、一人ではなかなかできないものです。背中を支え、時には押してくれた方々に感謝いたします。次は自分が子どもたちを支えなければいけないと思っています。



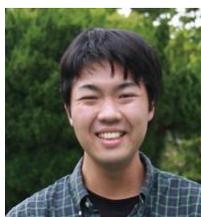
若林 徳亮 教育実践力開発コース 教科教育高度化分野 修了
(現職教員学生として在籍／小学校教諭)

2年間は、正解のない問いを考える時間でした。ただ一つの正解を探すのではなく、仲間とともに一つの実践や一つの出来事に向き合うこと、その中で自分の枠を更新していくこと。実践のおもしろさと教育の奥深さを頭と心と身体で体験できました。同期の皆でそのような時間を過ごすことができたことが大きな財産です。これから大学院生でなくなっても続けていくことを課題としたいです。



鈴木 理奈 学校経営力開発コース 学習開発分野 修了
(学部新卒学生として在籍／2023年度より中学校教諭)

私は「科学的に探究する力と態度を確実に育成する授業」について学びたいと考え進学しました。教職大学院で理論的な知識と学校現場での実践を融合させながら学ぶことにより、自身の「教育観」を様々な角度から見つめ直すことができました。この経験を積み重ねることにより、教師として教壇に立つ自信を持つことができました。ここで学んだことを活かして、これから現場での実践に励んでいきます。



森井 集也 教育実践力開発コース 特別支援教育分野 修了
(学部新卒学生として在籍／2023年度より特別支援学校教諭)

教職大学院での2年を経て、より明るく、自然に子どもたちと関わるできるようになったと感じます。明るく、という点では子どもたちと日々関わりを重ねられたことが理由だと考えます。実習や、ボランティア等で現場に行く機会が多くあり、有意義な時間を過ごせました。また自然に、という点では子どもの反応が理論に則って整理できる場面が増えたことが理由だと考えます。来年度以降も、実践に関わりながら理論を学び続けていきます。

多様な履修プログラム

※スケジュールは変更される可能性があります

本教職大学院は、現在、一種免許状を既に有していることが進学条件となっていますが、今後、教職をめざす多様な人材を受け入れ、高度な専門性をもった教員として輩出すべく、令和7年度より多様な履修プログラムを展開していきます。詳細は、募集要項等をご覧ください。

▼教職チャレンジプログラム

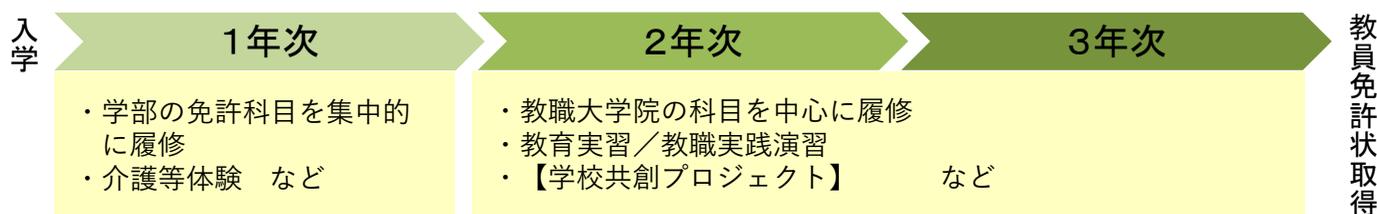
…3年間で教員免許状の取得をめざします…

対象：教職に就くことに強い思いを有しており、
教職大学院の入学試験に合格した人

■趣旨・目的

- 教育学部と教職大学院の両方で長期で学ぶことで…
 - ① 基礎力：新たな教員免許状取得をめざします。（ゼロからのスタートも可）
 - ② 応用力：【学校共創プロジェクト】を通して、高度な実践的指導力を身につけます。

■履修のスケジュール（例）



■こんな人を求めています

- 教員免許状をまだ持っていない人
- 他の校種や教科の教員免許状も取りたい人

※ 取得可能な教員免許状の種類や詳細についてはお問い合わせください。

▼附属学校園→教職大学院進学プログラム

…附属学校園で働きながら教職大学院で学びます…

対象：三重大学教育学部附属学校園の教員

■趣旨・目的

- 附属学校園での【学校共創プロジェクト】を通して…
 - ① 先進的な実践研究：三重県の教育のモデルとなるような実践研究を展開します。
 - ② 未来の教員の育成：より高度な若手育成を担えるスクールリーダーとしての力量を高めます。

■履修のスケジュール（例）

- 主に金曜の午後、及び集中講義を中心に教職大学院の科目を履修します。
- 共通科目や選択科目の一部を、附属学校園内で実施します。

1年次：共通科目を中心に履修

2年次：選択科目を中心に履修 + 【学校共創プロジェクト】

3年次：学修成果報告書の作成

県内各市町へ
学びの成果を還元

※ 進学条件や詳細についてはお問い合わせください。

三重大学教職大学院の概要

■ 名称

大学院教育学研究科教職実践高度化専攻

■ 課程

専門職学位課程

■ 入学定員

25名（ただし、三重県教育委員会から派遣される現職教員学生は10名）

■ 費用等

入学科 282,000円（予定額）
 授業料（年額） 535,800円（予定額）

■ 標準修業年限

2年（長期履修学生制度については、学生募集要項をご覧ください）

■ 修了要件

- ・「中核(コア)科目」「共通科目」「選択科目」から合計46単位以上の修得
- ・「学修成果報告書」の作成・提出

■ 学位

教職修士（専門職）

■ 取得できる免許状

取得可能な教育職員専修免許状は、下表のうち、入学時まで有している一種免許状と同じ校種・教科です。ただし、所属する分野によっては、修了に必要な単位以上の科目を履修する必要がある場合もあります。その他、免許状の取得については個別にご相談ください。

幼稚園教諭専修免許状	
小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、韓国・朝鮮語、宗教
高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、韓国・朝鮮語、宗教
特別支援学校教諭専修免許状*	知的障害者、肢体不自由者、病弱者（身体虚弱者を含む）

* 教育実践力開発コース特別支援教育分野に所属する者のみ取得可能

入試・説明会等の日程

▼令和7(2025)年度 入学者選抜日程

令和7(2025)年度入学者選抜の日程は下記の通りです。
詳細は、募集要項、本学ホームページなどでお知らせします。

受験者区分	【A日程】 令和6年 8月19日(月)	【B日程】 令和6年 10月27日(日)	【C日程】 令和7年 2月8日(土)
現職教員	○	△	—
学部新卒者等	○	○	△

※ 表中の△と表記された選抜は実施されない可能性があります。実施されない場合は、本学のホームページなどでお知らせします。

※ 学部新卒者等において、三重県の教員採用選考試験に合格し、採用候補者名簿への登載を2年間猶予希望の者は【B日程】までに受験し、合格することが求められます。なお、他の都道府県等における採用猶予については、各自で各自自治体の教員採用担当にご確認ください。

New!

筆記試験(小論文)免除制度

令和7年度入学者選抜試験(令和6年度に実施される試験)より、所定の要件を満たす場合、筆記試験(小論文)が免除されます。詳細は募集要項等をご確認ください。

New!

教職チャレンジプログラム

3年間で教員免許状の取得をめざす「教職チャレンジプログラム」希望者は別途出願資格審査があります。詳細は募集要項等をご確認ください。

▼入試説明会

入試説明会では、本教職大学院の特色、カリキュラム、学修生活の実際、入学者選抜の方法などについて説明するほか、担当教員が直接皆さんの質問に答えます。

日時

第1回 令和6年5月26日(日) 13:00-15:00
第2回 令和6年9月8日(日) 13:00-15:00

会場

オンライン
(Zoom使用)



参加
申込

参加希望回の5日前までに、
下記フォームから申し込んでください。
▶ <https://forms.gle/LFFxSn45t9N18UQHA>

開催日の3日前に、フォームに入力されたメールアドレス宛にZoomの招待メールを配信します。

教職大学院を 体験しませんか？

三重大学教職大学院では、年間を通じて様々な行事を公開するほか、院生の学修の様子を発信するイベントの実施や広報紙の発行をおこなっています。

- ▶ 報告会の一般公開
- ▶ 授業公開WEEK
- ▶ 学部生向け座談会 with 現役院生
- ▶ 個別進学相談会

▼詳細はこちら
(広報のページ)

『教職大学院NEWS』



Q & A

Q 「現職教員」区分での受験に年齢の上限はありますか？

A 特にありません。

Q すでに修士号を持っていても受験は可能ですか？

A 可能です。

Q 「現職教員」の定義は何ですか？

A 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等の教育現場で勤務する教員のほか、教育関係機関（教育委員会等）在籍者や教職等経験者も含まれます。詳細は学生募集要項をご参照ください。

Q 三重県外の学校に勤務している現職教員の受験は可能ですか？

A 受験は可能ですが、2年目の【共創実践演習】を勤務校で行えることが条件となります。それが不可能な場合は、「学部新卒者等」区分での受験となります。

Q 現職教員が受験するにあたって所属長の承諾は必要ですか？

A 必要です。学校の状況や方針等と関わるため、まずは所属長としっかり話し合ってください。また、三重県の派遣制度を利用する場合は、教育委員会の了承を得る必要があります。

Q 入学前に「学修計画書」等の出願書類の指導をしてもらえますか？

A 出願書類の作成にあたって個別の指導は対応しておりません。出願書類等に質問がある場合は、裏表紙に記載されている「お問い合わせ先」にご連絡ください。

Q 大学院を修了するために修士論文を書く必要はありますか？

A 本教職大学院では、修士論文の代わりに学修成果報告書を作成します。学修成果報告書の提出は、本教職大学院の修了要件の1つとなっています。

Q 院生の研究環境は整っていますか？

A 教職支援センター内に院生控室があります。院生控室には1人1台デスクが用意され、所属コース・分野・学年、現職・学卒問わず、院生全員が使用しています。院生たちは、ともに課題に取り組んだりディスカッションしたり、教員採用試験の対策等をしたりして過ごしています。



お問い合わせ先

三重大学大学院教育学研究科

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

E-mail info-mkd@edu.mie-u.ac.jp (入試・広報委員会)

▼本学への交通案内



▼キャンパスマップ



三重大学教育学部・大学院教育学研究科
公式ホームページ ▶▶ <https://www.edu.mie-u.ac.jp/>